



Sustainable Community Center Japan

NPO  
New Public Organization  
欲しいものは自分達で創る

---

# 2008 年度 活動報告書

2008 年 1 月 1 日～2008 年 12 月 31 日

2009 年 2 月 12 日

特定非営利活動法人  
日本サステイナブル・コミュニティ・センター  
<http://www.sccj.com/>

---

# 目次

## はじめに「2008年度の報告と今後の抱負」

### I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」
  - 1-1. どこカル. ネットの活動概要
  - 1-2. どこカル. ネットのサービス概要
  - 1-3. どこカル. ネットの各種活動実績
  - 1-4. どこカル. ネット運営体制
  
2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業
  - 2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要
  - 2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績
  - 2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制
  
3. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
  - 3-1. 京都研究会
  
4. 広報・マーケティング
  - 4-1. 各種メールリングリスト運営
  - 4-2. Web サイト運営
  
5. 会員について

### II センター運営に関する活動

1. 総会開催
2. 2008年度 SCCJ 理事会開催日
3. 事務局体制
4. 理事、監事、顧問

## はじめに「2008年度の報告と今後の抱負」

2008年度総会を迎えるに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

特定非営利法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター(SCCJ)は法人設立以来10年目を迎えることができました。これもひとえに、会員の皆様、また関係者の皆様のご温情の賜物と、深く感謝いたしております。

節目の年を迎えたSCCJは、この1年間も、着実に歩んでまいりました。「どこカル・ネット」は、電子カルテ導入支援も順調に進み、会員企業のご参加も堅調です。そして、ポケットカルテの試行から、本格運用へとステップアップをすることになり、新年度は大きな飛躍が期待されているところです。

また、京都研究会は10年目を迎え、情報通信技術(ICT)の活用を通じて持続可能な社会の実現に向けて社会実験や社会的合意を調達する場として、初心に帰って例年のように2008年11月に開催することができました。

なお、「みあこネット」は、自立分散型のネット社会構築を目指して活動をしてきましたが、その先導的・社会的な役割を果たしたものと考え、技術的な支援を中心に活動するようになって来ました。

もちろんすべてが順調に進んでいるわけではなく、何とか継続的な活動を復活したいと考えていましたエココミュニティ研究会は、結局2008年度は開催できませんでした。ユビキタス社会の実現を目指す「こちネット」も満足な活動をすることはできませんでした。新年度においては、私たちの活動をさらに幅広く展開し、より多くの方々にご参加いただけるような、さまざまな企画を実現できるよう、鋭意、検討したいと思っております。

2009年度を迎えるに当たりまして、2008年度の反省を踏まえて、原点回帰による自己点検をしっかりと行い、次への飛躍を目指してまいりたいと思います。現在進めておりますそれぞれの事業につきましても、これまで以上の拡充あるいは質的向上を図りたいと考えています。会員各位、そして関係者の皆様に、ご指導ご鞭撻を賜り、またご支援ご協力をいただきながら、さらに充実した活動を展開していきたいと存念しております。

改めまして、新年度も、よろしくお願い申し上げます。

2009年2月吉日

特定非営利活動法人  
日本サステイナブル・コミュニティ・センター  
代表理事 **新川達郎**

## I センター事業活動実績

### 1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

#### 1-1. どこカル. ネットの活動概要

どこカル. ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心・安全で質の高い医療を受けることができるような(すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような)地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして、2004年5月に開始。

「どこカル. ネット」プロジェクト開始以前に、北岡顧問が支援してきた3地区を経て、現状、16地区の地域中核病院・団体に対して標準化型電子カルテの導入支援や情報化支援を行っている。

また、同プロジェクトに賛同する23社を会員に迎え、導入支援チームとして、会員数社から4名のボランティアスタッフにSEとして協力いただいている。

また6月より、個人の健康履歴(検診データ管理、紹介状管理、入院退院サマリー)を、インターネットを介して携帯端末やPCを用い、個人主体で管理可能なサービス「ポケットカルテ」の試験運用サービスを開始し、10月には本サービスを開始している。

#### 1-2. どこカル. ネットのサービス概要

■特徴:いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

- 【1】いつでも:ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医(診療所)」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有(一地域一患者一電子カルテ)を行う。(注:ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。)
- 【2】どこでも=ユビキタス:「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者=住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
- 【3】だれでも:ITコンソーシアム京都(京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成)医療情報化部会との協業で進められている「共通診察券(無償)」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
- 【4】安心安全:「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセスポイント(無線基地局)を利用。また、医療従事者や患者=住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証(生体認証のひとつ)」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
- 【5】質の高い健康・医療・福祉:共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテーラーメイドで提供。

#### 1-3. どこカル. ネットの各種活動実績

2008年度は以下の活動を実施した。

##### ■「どこカル. ネット」事業会議

週1回、京都医療センター臨床研究センターにて事業統括責任者、スタッフ一同で定例会議を実施。2008年度においては計41回の会議を開催した。

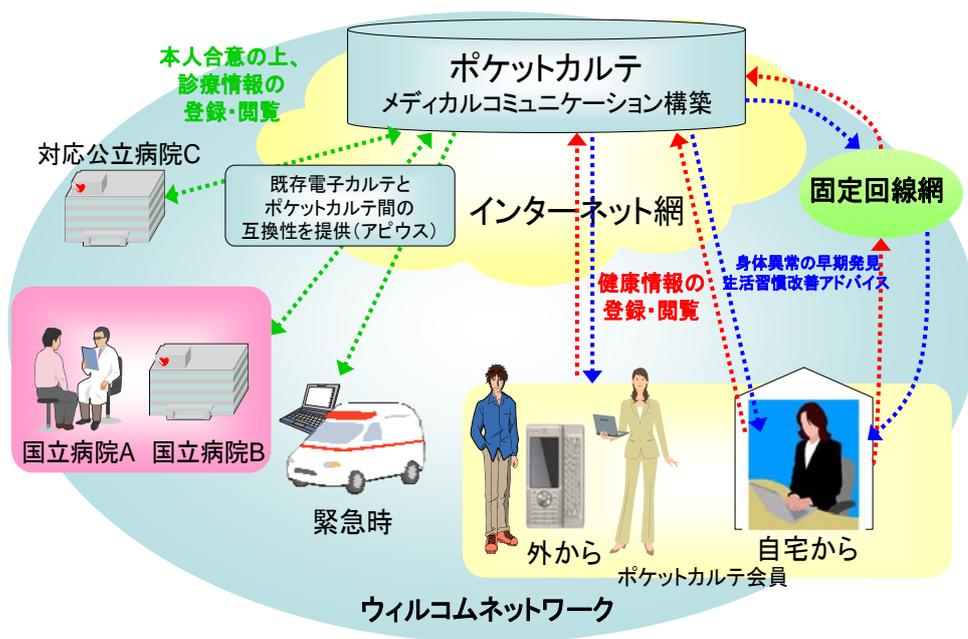
■ 医療機関・学術団体向けの医療情報システム・医療関連システム導入・構築・更新に対するコンサルテーション  
 医療機関側に不足しがちな IT スキルを補い、助言をし、医療機関と同じ立場で導入ベンダと交渉等を行う。また、医療情報を適切に扱う体制作りや、問題解決に対する助言、支援を実施。2008 年度における定期的な支援先医療機関、団体は 16 施設。

■ 「ポケットカルテ」～特定健診・保健指導データにも対応した個人向け健康情報管理サービス～開始  
 どこカル.ネットと株式会社アピウス様、株式会社メディカルコミュニケーション様、株式会社ウィルコム様は、電子カルテを活用した医療サービス「ポケットカルテ」を 4 社共同で開発。2008 年秋から本サービスの無料提供を開始した。本サービスは、専用サイト「ポケットカルテ」に登録した上で健康情報を入力する。利用者は自宅のパソコンからネットを通じて閲覧・更新が出来るほか、PHS やモバイル端末で閲覧が可能。

様々なメディアでも紹介され、2009 年 2 月末迄に 1 万ユーザーを超える見込みであるが、今後も本サービス「ポケットカルテ」への参加を広く呼びかける予定である。

さらに、医療機関、利用者の双方にとって、より安心・安全な医療環境の実現を目指すとともに、国家的な課題である医療費の削減や、予防医療・遠隔医療の促進、地域医療の再生など医療分野の ICT 化にも協力して取り組んでゆく。

サービス概念図



■ 「どこカル.ネット」会員研修会

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互いの連携・親睦を図る機会として 2 ヶ月に一度開催。2008 年度においては 6 回の研修会を開催した。

< 研修会開催日 >

- ・ 2008 年 2 月 29 日(金) 第 20 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2008 年 4 月 18 日(金) 第 21 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2008 年 6 月 27 日(金) 第 22 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2008 年 8 月 22 日(金) 第 23 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2008 年 10 月 24 日(金) 第 24 回どこカル.ネット企業会員研修会

・ 2008 年 12 月 26 日(金) 第 25 回どこカル.ネット企業会員研修会



写真:会員研修会での様子

#### ■ 「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の実施

将来の医療従事者の育成・発掘、また創造的な医療分野の開拓を目的とし、小学生を対象とした作文コンクールを実施。

第 4 回目の開催となる 2008 年度は、全国の小学生から作文が応募され、愛知県豊田市立市木小学校 6 年長谷川 綾乃様に最優秀賞が授与された。過去のコンクールと比べ応募総数は若干下回ったものの、未来の医療に対し多くの子供達が夢を抱いていることがどの作品からも読み取ることができ、開催の意義が感じられた。2009 年度以降も継続して開催予定である。

#### ■ 医療現場に携わる医師・看護師などで構成する PHS 研究会設立～医療用 PHS 端末・サービスの開発に着手～

2008 年 6 月、医療界に最適な通信端末の検討を志し、医療現場に携わる医師・看護師などで構成する医療用 PHS 端末研究会を設立。様々な健康・医療・福祉現場で必要となる専用端末のアイデアを持ち寄り、それを具体化し、医療現場に送り出すことを目的とした研究会である。計 3 回開催され、今後、研究会の実績をもとに医療機関に向けて提唱することで、実社会での活用を目指す。

#### ■ リフレッシュ PC プロジェクト

病院や企業で使用され、不要となったパソコンを用い、学校や地域の情報化を進める活動を行っている。学生インターンシップ生やボランティアの活躍によりパソコン本体を掃除し、内部のデータを消去して新たに利用可能な状態(リフレッシュ PC)にすることによって、遊休資源を地域の学校や各種団体にとっての必要な資源へと生まれ変わらせる活動である。2008 年度には「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」での最優秀賞の副賞としてリフレッシュ PC 30 台を設定した。

#### ■ 大学コンソーシアム京都インターンシップ

2008 年度は財団法人大学コンソーシアム京都の主催する、大学生の夏休み期間を利用したインターンシップ・プログラムを昨年に引き続き参加した。インターンシップ生 1 名の採用を行い、8 月 1 日～31 日の 1 ヶ月間、上記「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」、「ポケットカルテ」の運営を協力いただいた。当センターでの就業体験により、次年度以降も市民主体の社会貢献活動を広げていきたい。

#### ■ 2008 年の主なイベント一覧

- ・ 01月13日～20日 HL7 January Working Group Meeting
- ・ 02月01日 「日本における糖尿病教育アウトカム指標の開発」研究班 19年度第2回班会議
- ・ 02月21日 【総務省】主催第2回ユビキタス健康医療シンポジウムで講演
- ・ 02月27日 【ITコンソーシアム京都】平成19年度第1回医療情報化部会開催
- ・ 02月28日 厚生科学研究DM教育プログラム成川班講義
- ・ 02月29日 第20回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 03月07日 【PMDA】「拠点医療機関ネットワーク構築事業のあり方に関する検討」会開催
- ・ 03月07日 【UMIN】文部科学研究班会議(医療VPN班会議)

- ・ 04月18日 第21回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 05月03日～11日 HL7 January Working Group Meeting
- ・ 05月12日 「ポケットカルテ試験開始」プレスリリース
- ・ 05月13日 読売新聞社様発行「読売新聞」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 05月13日 日本経済新聞社様発行「日本経済新聞」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 05月13日 京都新聞社様発行「京都新聞」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 05月23日 株式会社じほう様発行「医療情報経済紙 Japan Medicine」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 05月27日 株式会社ウィルコム様主催「WILLCOM FORUM & EXPO 2008」で講演
- ・ 06月12日 厚生科学研究DM教育プログラム成川班講義
- ・ 06月12日 【ITコンソーシアム京都】第3回総会開催
- ・ 06月27日 第22回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 07月01日～09月30日「第4回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」実施
- ・ 07月04日 第1回医療用PHS端末研究会開催
- ・ 07月10日 株式会社リコー様と特許共同出願  
特許出願公開番号:特開2005-6169(処方箋などの医療文書偽造防止システム)  
が国内特許取得
- ・ 08月02日 JBCCヘルスケア・コンソーシアム(JBHC)日本ビジネスコンピューター株式会社様主催、  
「JBHC医療総合セミナー2008in大阪」で講演
- ・ 08月22日 第23回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 08月25日 第2回医療用PHS端末研究会開催
- ・ 09月06日 滋賀県産婦人科医会レセプトオンライン化講演
- ・ 09月14日～20日 HL7 January Working Group Meeting
- ・ 10月01日 どこカル.ネット事務局移転
- ・ 10月09日 京都新聞社様発行「京都新聞」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 10月10日 第3回医療用PHS端末研究会開催
- ・ 10月24日 第24回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 10月27日 【科学技術振興機構】第2回医療医科学研究評価作業部会で講演
- ・ 11月07日 株式会社リクルート様発行 フリーマガジン「L25」に「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 11月17日 第62回国立病院総合医学会イブニングレクチャーで講演
- ・ 11月19日 JFN「OH! HAPPY MORNING」「OH! HAPPY STYLE」!  
コーナーにて「ポケットカルテ」が紹介された。
- ・ 11月28日 「第4回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」表彰式
- ・ 12月01日 済生会本部「国立病院機構における情報システムの標準化について」講演
- ・ 12月13日 P4P研究会で講演
- ・ 12月26日 第25回どこカル.ネット企業会員研修会

また、2009年1月にHL7 January Working Group Meeting Orlando, FL, USA へ出席予定。

#### 1-4. どこカル.ネット運営体制

■運営体制 <http://www.dokokaru.net/modules/tinyd0/index.php?id=7>

【責任者体制】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
事業運営責任者	中辻 善行	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター
総括技術責任者	事業統括責任者兼務	
技術運用責任者(データベースおよび分析技術担当)	成田 徹郎	金沢工業大学大学院 客員教授
技術運用責任者(情報)	隅岡 敦史	NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・

通信技術担当)		センター
財務責任者	事業統括責任者兼務	

#### 【担当顧問】

氏名	所属
北岡 有喜	京都医療センター 医療情報部長／国立病院機構 情報化統括責任者 (CIO)補佐官／国際医療福祉大学大学院 客員教授
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授／CAN フォーラム会長

#### 【企業/企業会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	アイテック阪急阪神株式会社	中央システムサービス株式会社
	株式会社アピウス	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
	アライドテレシス株式会社	日本ビジネスコンピューター株式会社
	イーメディカルシステム株式会社	株式会社パソナテック
	株式会社インスパイア	日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
	株式会社ウィルコム	株式会社ファルコバイオシステムズ
	サクサ株式会社	株式会社メディカルコミュニケーション
	株式会社シィ・エイ・ティ	

他 8 社、計 23 社 (50 音順、2008 年 12 月末現在)

## 2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業

<http://www.miako.net/>

### 2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要

みあこネットとは、市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクトで、当法人の呼びかけにより 2002 年 5 月から広がり、市民有志の負担でアクセスポイントを設置・運用する実証実験である。

企業内、家庭内におけるネットワークへ、安心・安全に基地局を運営し、また利用者にとっても簡単に公衆でインターネット接続を利用できる方法として、VPN を利用した「みあこネット方式」を提唱し、同方式の普及支援活動を実施している。

プロジェクト開始から 2005 年 3 月末までの 3 年間は、SCCJ を運営母体とする実証実験を実施。2005 年 4 月～2008 年 3 月末は、京都の地域プロバイダ「京都アイネット」での商用運用の採用があり、地域内情報バリアフリーの一役を担った。同社は 2008 年 3 月をもって、みあこネット方式を用いた商用運用を終了し、みあこネットにおける商用サービスは今年度内で終了を迎えた。

2008 年 4 月からは、みあこネット方式に準拠したサーバを、希望する団体が独自に運用できるようパッケージ化し、京都大学や京都医療センター独自の運用として自律分散的に運用されている。

### 2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績

#### ■ 自律分散運用型のサーバ、市販の無線ルーターによる「みあこネット方式」のパッケージ化

公衆無線基地局を設置する際、利用者、基地局設置者が共に安心して利用できる環境を用意する必要があるため、市販の公衆設置型無線ルーターに対し、VPN による通信のみ許可をする「みあこネット方式」に適應する調整を行い、サーバと共にパッケージ化した。このパッケージは、設置する箇所に応じたネットワーク設定を施すことにより、容易に「みあこネット方式」に対応した基地局として運用可能となっている。

現在、京都大学、京都医療センターにおいて、以下の箇所にて独自運用されている。

・京都医療センター : 外来管理診療棟、臨床研究センター

・京都大学 : 時計台記念館、学術情報メディアセンター南館・北館、総合研究 5 号館、正門前、附属図書館、女子寮、室町寮、熊野寮、留学生ラウンジ「きずな」、総合博物館、吉田南 1 号館、吉田南総合館北棟、ウイルス研究所、医学研究科人間健康科学系専攻、東南アジア研究所、教育学研究科、フィールド科学教育研究セン

ター、工学部 1 号館、工学部 3 号館、VBL、稲盛財団記念館。

■ 外国人観光客向けのインターネットアクセス環境の整備

京都市国際交流会館をはじめとし、外国人観光客・滞在者が集多まる場所において、インターネットアクセス環境を整備する活動を継続して行っている。

<外国人観光客、留学生が利用可能な施設>

- ・京都市国際交流会館(2008年3月末まで)

住所:京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1

無線インターネット「みあこネット」の利用及び外国人観光客向けのID発行サービスの支援を実施した。

- ・京都大学留学生ラウンジ「きずな」

住所:京都市左京区吉田本町 本部構内

無線インターネット「みあこネット」の利用が可能。(※京都大学の学生・教職員を対象)

■ 研究・実験

前年に引き続き、P2P(Peer to Peer) Universal Computing Consortium(PUCC)(有限責任中間法人PUCC)でのコンソーシアムにて研究・実験を実施しており、PUCCで策定しているP2Pストリーミングプロトコルに対し、マルチキャストストリーム中継に関する仕様の追加と、実験環境の構築を行っている。

マルチキャストは、受信者数の増加に対してスケーラビリティが有り、受信者数が増えても帯域を有効利用できる通信方式であるため、マルチキャストが利用できる環境では積極的に利用することが望ましいと考えられる。

しかし、多くのインターネット環境ではマルチキャストを中継できないため、P2Pストリーミングプロトコルによってマルチキャストストリームの送信、中継、受信のシグナリングが完了しても、実際にはコンテンツが受信ノードまで届かないことが考えられる。

本共同研究ではこれらの問題を解決するため、マルチキャストが利用できない環境では、IPトンネルやアドレス・ポート変換技術と組み合わせ、次中継ノードまでの中継を行う方法について検討しており、今後実験で動作の検証を行う。

2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

■ 運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属
事業統括責任者	岡部 寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授
総括技術責任者	古村 隆明	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門特定准教授(産学官連携)

【担当顧問】

氏名	所属
今井 賢一	株式会社東京大学エッジキャピタル取締役
辻 正次	兵庫県大学大学院応用情報科学研究科教授
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授/CANフォーラム会長
北岡 有喜	国立病院機構本部情報化統括責任者(CIO)補佐官/京都医療センター医療情報部長/臨床研究センター情報推進研究室長

【企業/団体会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	日本通信株式会社	京都アイネット株式会社
団体会員	有限責任中間法人 PUCC	

計 2 社 1 団体

### 3. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）

#### 3-1. 京都研究会

1年に1度、12月に開催している「京都研究会」が10回目を迎えた。持続可能なコミュニティの形成を目指して、地域に必要とされる社会的事業の発展に寄与するべく、ICT技術をコアにしながら、さまざまな活動展開をしてきたが、組織的にも、1998年の活動をきっかけに翌年には任意団体として、そして2002年にはNPO法人として活動を進めてきた状況での開催であった。

2008年度の京都研究会は、再び原点に立ち戻るという意味もこめて、『持続可能な社会づくり』をテーマに掲げて、「グリーンIT」、「市民メディアとまちづくり」の事例発表などを踏まえ、研究会を開催した。まちづくりにおけるICTの活用、持続可能な環境のためのICTのあり方、ICTによる地域医療のイノベーションなどを取り上げ、先端的な技術革新とその社会への応用について考える機会となり、環境にやさしい持続可能な社会づくりを実現していくための大きなステップとなった。

#### ■ 第10回京都研究会「持続可能な社会づくり」

- ・日時: 2008年11月28日 金曜日 13:00～
- ・場所: 京都市国際交流会館 イベントホール(京都市左京区粟田口鳥居町2番地の1)

#### 【内容】

- ・受付開始: 12:00
- ・第1部 研究会: 13:00～17:30

#### セッション①「まちづくりとICT～出町界隈の活性化におけるメディア活用」

- ・進行: 新川 達郎 (同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事)
- ・講演: 谷口 知弘 (同志社大学大学院総合政策科学研究科教授): 田中 恒 (同志社大学大学院総合政策科学研究科院生)

#### セッション②「グリーンIT」

- ・進行: 竹原 司 (ナレッジオートメーション株式会社代表取締役/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事)

#### 「ホームネットワークを活用した省エネの可能性」

- ・講演: 岡部 寿男 (京都大学学術情報メディアセンター教授/みあこネット方式普及支援事業統括責任者)

#### 「グリーンITを測る7つの視点 ～リコーにおける実践事例～」

- ・講演: 阿久沢 了 (株式会社リコー IT/S本部 IT/S企画室副室長)

#### 「グリーン・テクノロジー入門ー北米事情」

- ・講演: 岸本 善一 (IP Devices 代表 工学博士)

#### 「CIOの課題としてのグリーンIT」

- ・演者: 森 泰成 (アクセンチュア株式会社システムインテグレーション & テクノロジー本部インフラストラクチャコンサルティング統括パートナー)

どこカル・ネット『第4回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール』最優秀賞表彰式

#### セッション③「個人の生涯健康履歴管理をポケットカルテが支援します」

- ・進行・講演: 北岡 有喜 (NHO 京都医療センター医療情報部長/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター顧問)

- ・会場参加者、演者を交えた総合討論会

コーディネータ: 新川 達郎 (同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事)

- ・第2部 分科会(懇親会): 17:30～19:00

#### 【会場】

ルヴェ ソン ヴェール岡崎

住所: 京都市左京区粟田口鳥居町2-1 京都市国際交流会館内

#### 【運営体制】

主催: 特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

後援: 京都府、京都市、京都新聞社、ITコンソーシアム京都

【定員】220名

## 4. 広報・マーケティング

Web サイト、プレスリリース、各種メールリストでの広報・マーケティングを行った。

### 4-1. 各種メールリスト運営（Yahoo！ eGroups 利用）

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールリストが 10 数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメールリストで、設立当初の 1999 年の 190 名から数年たち、2008 年 12 月末に登録者は 720 名となった。

### 4-2. Web サイト運営

2008 年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・SCCJ の Web サイト <http://www.sccj.com/>
- ・みあこネット <http://www.miako.net/>
- ・どこカル.ネット <http://www.dokokaru.net>
- ・ポケットカルテ <http://pocketkarte.net/>
- ・ユメチエ <http://yumetier.net/>

## 5. 会員について（2008 年 12 月末現在）

<SCCJ 正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	19	5	24
学生	2	1	3
合計	21	6	27

<SCCJ 企業・団体会員>1 団体  
社会福祉法人西陣会

<みあこ企業・団体会員>2 社 1 団体  
詳細は「みあこネット普及支援事業」項目を参照のこと。

<どこカル.ネット企業・団体会員>23 社  
詳細は「どこカル.ネット」項目を参照のこと。

## II センター運営に関する活動

### 1. 総会

特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター 総会

日時：2008 年 2 月 22 日（金）18:30～19:30

会場：同志社大学大学院総合政策科学研究科会議室

2007 年度事業報告、収支報告、2008 年度役員体制が了承された。

### 2. 2008 年度度 SCCJ 理事会開催日

下記の日程に於いて、理事、事務局スタッフによる定期理事会を開催した。

- ・ 2008 年 1 月 29 日
- ・ 2008 年 2 月 22 日
- ・ 2008 年 3 月 19 日
- ・ 2008 年 4 月 10 日
- ・ 2008 年 5 月 22 日
- ・ 2008 年 6 月 18 日
- ・ 2008 年 7 月 24 日
- ・ 2008 年 8 月 27 日
- ・ 2008 年 9 月 30 日

- ・ 2008 年 10 月 23 日
- ・ 2008 年 11 月 27 日
- ・ 2008 年 12 月 26 日

### 3. 事務局体制 (2008 年 12 月末現在)

#### (1) 職員

常勤: 3 名  
 プロジェクト・マネージャー: 隅岡敦史  
 プロジェクト・マネージャー: 中辻善行  
 プロジェクト・コーディネータ: 小川麻理  
 どこカル.ネット ボランティア: 4 名

### 4. 理事、監事、顧問 (2008 年 12 月末現在)

#### (50 音順)

代表理事	新川 達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	ナレッジオートメーション株式会社代表取締役／株式会社デザイン・クリエイション最高顧問／社団法人コンピュータソフトウェア協会理事・名誉会員
	平澤 創 (理事)	株式会社フェイス代表取締役社長
監事	土井 充	公認会計士土井充事務所
顧問	跡田 直澄	大阪大学大学院経済学研究科招聘教授
	今井 賢一	株式会社東京大学エッジキャピタル取締役
	大村 皓一	宝塚造形芸術大学大学院映像造形学科教授
	北岡 有喜	京都医療センター医療情報部長／国立病院機構 情報化統括責任者(CIO)補佐官／国際医療福祉大学大学院客員教授
	北矢 行男	多摩大学総合研究所名誉教授
	公文 俊平	多摩大学情報社会学研究所所長教授／財団法人ハイパーネットワーク社会研究所理事長／神戸大学大学院大学非常勤講師
	國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授／CAN フォーラム会長
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授
	林 敏彦	放送大学教授(兼、学長特別補佐)／(財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構安全安心社会研究所所長／大阪ガス株式会社監査役
	町田 洋次	元長銀調査部／元社団法人ソフト化経済センター理事長
	三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター理事
山内 直人	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授	

以上